

ひかり探Qプロジェクト【学校の探究活動と連携した取組】

「私の防災、今までとこれから」～未来へ繋ぐ探Q～

光市立浅江中学校 2年

棟近 光渚乃

1 これまでの学び

これまでの2年間、学校の総合的な学習の時間で「防災」をテーマにした「浅江探究プロジェクト」に取り組んできた。

1年生では「防災について知る」、2年生では災害時に学校が避難所になることを踏まえて「避難所運営について考える」というテーマで学習を進めてきた。専門家の方のお話を聞いたり、実際に体験活動を行ったりしながら、身近な防災について理解を深めてきた。これらの成果は文化祭などで保護者や地域の方々に発信している。

また、この取り組みは(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構などが主催する令和7年度「ぼうさい甲子園」で特別賞「フロンティア賞」を受賞した。



2 現在「気になっている」・「やってみたい」こと

今年4月、私たちは移転により新しい浅江中学校の校舎で生活を始める。この新校舎は、災害発生時に地域の避難所として機能できるよう、さまざまな設備が整えられている。

具体的には、1階フロアのバリアフリー化、ランチルーム横の「避難時昼スペース」、炊き出しを想定した調理・被服実習室、多目的トイレ、防災倉庫の設置などである。

このような環境で学校生活を送るにあたり、もし大きな災害が起きて学校が避難所になったとき、私たち中学生に「どんなことができるのか」を探Qしたいと思う。そして、その「できること」を実際の行動として形にするために、みんなと一緒に考え、探Qを深めていきたい。

私の探Qは今、「私の防災、今までとこれから ～未来へ繋ぐ探Q～」というテーマで、スタートしたばかりである。



防災教育を核とした総合的な学習の展開について ～ぼうさい甲子園の有効活用を通じて～

光市立浅江中学校

1 はじめに

本校は、コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、学校・家庭・地域が一体となって、生徒たちの「気づき・考え・行動する」力を育む「地域とともにある学校」である。現2年生は、総合的な学習の時間を活用し、地域学習の一環として、「防災」を中心とした「浅江探究プロジェクト」に取り組んでおり、1年次には、「防災について知る（気づき）」をテーマに地域の防災士さんの話を聴いたり、消防署や防災庁舎に行き、救急訓練や地震体験、危機管理課の仕事について学んだりした。2年次は「避難所運営について考える（考え）」をテーマに取り組み、避難所で起こり得る様々な課題について向き合った。3年次では、3年間の学びを統括し、「防災に強い街づくりへの実践（行動する）」をテーマに取り組む予定である。これらの学びは、文化祭の展示やステージ発表で他学年、保護者、地域の方に発信している。

2 活動に至った背景と目的

2013年に「シンサイミライ交流会」に参加した生徒が、宮城県松島市で行われている「青い鯉のぼりプロジェクト」について知り、ボランティアの一環として鯉のぼりを集める活動を行った。集められた青い鯉のぼりは「青い鯉のぼりプロジェクト」事務局に送り、残った真鯉、緋鯉は学校の中庭に掲げた。現在は、「虹の鯉のぼりプロジェクト」実行委員会が立上がり、光市の虹ヶ浜の空に鯉のぼりを掲げ、東北に復興と鎮魂の想いを届ける活動として地域のイベントとなっている。生徒たちはボランティア活動の一環として鯉のぼりを掲げ活動に参加している。しかし、震災学習の取組も時間が経つとともに生徒たちの意識が薄れてきていることもあり、防災学習を通して、「命を守ること」「多様性に対応した人権意識を高めること」そして、「地域とのつながり」を意識するために「防災」をテーマにした取り組みを行うこととした。

3 取組の具体および成果

（実践した取組）



取組①



取組②



取組③



取組④



取組⑤

取組① 徳山高等専門学校防災講座：画像や映像を交えた地震や土砂災害の発生メカニズムや実際の被害についての話を聴いたり、模型実験を行ったりした。

取組② BOUSAI ウォークラリー：浅江地区の土砂災害が起きやすい地域をグループで巡り

チェックポイントでは、教員・地域の人から出題された防災クイズに答えた。

取組③ やさしい日本語：大学の先生が来校し、「やさしい日本語」について学び、ロールプレイを行い、実践力を磨いた。外国人がいた時の避難所運営の対応について考えることができた。

取組④ ふれあい促進事業：光市の取組のふれあい促進事業では、障害がある人と交流を行うことで、接し方を知るとともに避難所での対応について考えた。

取組⑤ 避難所運営ゲーム：和歌山県の避難所運営ゲーム「きいちゃんの災害避難ゲーム」と静岡県の避難所運営ゲーム「HUG」を実施し、避難所運営について考えた。

さらに、タブレット端末にある「防災のしおり」に、それぞれの取組を通して知ったことや気づいたこと、感じたことを各自がまとめた。「避難カード」は、タブレット端末を活用し各自が作成した。作成した「避難カード」は印刷したものを各家庭に1部配付、A5版に印刷したものはラミネートし、自分の登下校用のカバンに入れて「いざ」というときに備えている。また、職場体験学習で学んだことを「避難所運営に役立てることができないか」という視点で考え、文化祭で、職場体験で学んだことを活かした「避難所運営」に視点おいたステージ発表を行うとともに、12月には東日本大震災で支援活動に尽力されたDMATの方の話を聴き、被災された方々の「心のケア」について深く考えた。

来年度は、過去2年間の学びを踏まえ、「災害に強い街づくり」についての企画を考えていく予定である。

4 結びに

本活動を通じて、生徒たちは、どの活動についても前向きに取り組み、自分だけでなく周りの人への配慮やサポートについて考えることができるようになってきた。活動全般を通じて、本校及び学園のミッションでもある「気づき・考え・行動する力（エージェンシー）」を育み、ウェルビーイングを高める」ことに大きく寄与していると捉えており、今後一層の取組推進を図っていく。

～ぼうさい甲子園授賞式に参加して～

1月24日、生徒会長とともに「ぼうさい甲子園」の授賞式に参加した。全国の学校や団体の防災活動の発表を聞くことができ、これからの活動の充実に向け、有意義な時間を過ごすことができた。その中で、小学生から高校生、さらに大学生になっても防災リーダーとして活動を続けている人々の姿に感動し、防災学習は一時期、一度きりではなく、継続が大切だと改めて感じた。この経験を活かし、来年度は「防災に強い街づくり」に向けた実践につなげていきたいと考えている。



